

東アジアとは何か？

北陸大学未来創造学部講師
福山悠介

東アジア総合研究所では、本年度、すでに2つの講演会と2つの研究会を実施している。本年度から研究所のメンバーとなった私は、4月に開催された講演会「今東アジアはどうなっているか？」と7月に開催された「東アジアの調和的発展のために私たちができること」に参加させていただき、そして研究会「現在の日韓関係 竹島問題と北朝鮮」で報告をさせていただいた。これらの中で常に重要な問題として浮上し、また結論の出ない点が一つある。それは表題である「東アジアとは何か？」という点である。

そもそも Asia とは、古代ギリシアで生まれた概念であり、Asu (日、出ずる処) を語源とし、Erebu (日、没する処) から派生した Europe の対概念である。つまり東アジアとはギリシア、ひいてはそれを母体とするヨーロッパ文明の世界観において、東方の最果てに位置づけられるものであり、東アジアから創出されたものではないのである。

東アジア地域自体を歴史的に見てみると、それはほぼ中華帝国とその周辺との歴史と言える。常に地域の Great Power であった中国は朝貢外交を基礎として周辺国との関係を構築し、周辺国の側は中国との関係を最重要視し、中国の皇帝から王位をみとめられることによって正統性を確保した。つまりこの地域には中国および隣国以外の国との「国際関係」は存在しなかったのである。そこに「東アジア」に代わる概念が生まれる素地はなかった。そう考えると、「東アジア」が誕生したのは古く考えてみても「西洋の衝撃」以降であり、実質的にはアジア各国が植民地から脱した、先の大戦以降のことであろう。

現在、「東アジア共同体」構想が議論されている。2005 年末には東アジアサミットが開催された。参加国は東南アジアの ASEAN 10、北東アジアの日本、中国、韓国、オセアニアのオーストラリア、ニュージーランド、そして南アジアのインドである。政治的には民主主義もあれば、共産主義、軍事政権もあり、いまだ国内外と紛争を抱える国も少なくない。宗教的に見ても仏教、イスラム教、ヒンドゥー教、キリスト教があり、一つの地域にこれだけ幅の広い宗教を抱える地域も世界的に見て珍しいだろう。また、同じ地域に位置しながら、枠組みに参加できていないモンゴル、北朝鮮、台湾、東ティモールなどもある。「東アジア」と銘打たれているものの、その範囲は非常に広く、政治的、文化的、宗教的に多様なのである。

そういった意味で、現在の東アジアと言われる地域には、共通の「記憶」も共通の「価値観」もなく、あるのは共通の「利害」だけだといえるのではないか。それはこの地域の統合が「公約数」ではなく「公倍数」によって推進されているといえるのかもしれない。そう考えたとき、我々が目指す第一歩は、それぞれの利害をいかに相互理解し、尊重するかということではないだろうか。「東アジア」とはあくまでも域内の個の集合体であり、いまだ集団ではないことを認識のスタートとしたい。